

教育委員会の主な事務
の点検・評価報告書
【平成26年度事業】



平成27年8月
銚田市教育委員会

目次

第1章 教育委員会評価制度の概要	1
1. 点検・評価の趣旨	
2. 点検・評価の対象・期間	
3. 点検・評価の方法	
4. 点検・評価委員	
第2章 教育委員会の活動状況	3
1. 教育委員について	
2. 教育委員会の活動状況について	①教育委員会会議 ②視察・研修等 ③入学式・卒業式
第3章 点検・評価シート	8
1. 教育総務課	1 小学校耐震補強及び大規模改造工事【繰越】 2 銚田北中学校区統合小学校整備事業 3 銚田南中学校区統合小学校整備事業 4 銚田北中学校校舎改築事業
2. 指導課	5 英語指導事業 6 のびのび児童生徒推進事業 7 特別支援教育支援員等配置事業 8 ことばの教室事業
3. 生涯学習課	9 ほこたマラソン記念大会事業 (第10回記念ほこたハーフマラソン大会) 10 スポーツ推進事業(スポーツ教室) 11 青少年育成事業(成人式事業) 12 青少年育成事業(花いっぱい運動事業) 13 青少年育成事業(子どもふれあい事業) 14 文化財保護・啓発事業 15 家庭教育支援事業 16 文化振興事業(美術展覧会開催) 17 学習等供用施設改修事業 18 青少年育成事業(親子木工教室事業) 19 人権教育事業 20 ブックスタート事業 21 図書館資料収集事業 22 公民館運営事業

第4章 評価委員の意見	31
-------------------	----

第1章 教育委員会評価制度の概要

1. 点検・評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(昭和31年法律第162号)第26条が平成19年6月に一部改正されたことに伴い、教育委員会は毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果について議会に報告するとともに、公表することが規定されました。

そのため、銚田市教育委員会は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成26年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行について、教育に関する学識経験者の意見を活用して、点検及び評価を行い議会に報告を行うとともに、公表を行うものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条

- 1 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条の第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 点検・評価の対象・期間

(1) 対象 平成26年度の銚田市教育委員会の事務事業を対象とする。

- ・ 教育委員会活動状況
- ・ 教育委員会主要施策

(2) 対象期間

平成26年度 平成26年4月から平成27年3月まで

3. 点検・評価の方法

(1) 自己評価

各主管課及び教育委員会による主要事業の自己評価を実施する。

(2) 評価委員の意見聴取

教育委員会の自己評価に対し、外部の学識経験者による評価委員からの意見・助言を聴取する。

4. 点検・評価委員

本市の教育行政(学校教育・社会教育全般)について、下記の教育に対し高い知見を有する学識経験者である委員の方から、専門的かつ広い視野からのご意見、ご助言をいただきました。

氏 名	所属団体及び役職名
山 口 豊 一	跡見学園女子大学教授
下河邊 康 志	元小学校長
平 沼 京 子	元小学校長

第2章 教育委員会の活動状況

1. 教育委員

本市教育委員会は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から、市長が市議会の同意を得て任命した5名の教育委員により構成されている。

銚田市教育委員会委員(平成27年3月末時点)

職名	氏名	任期
委員長	石山 ちい子	平成24年12月27日から平成28年12月26日まで
委員長職務代理者	新館 和子	平成25年12月27日から平成29年12月26日まで
委員	田口 裕之	平成23年12月27日から平成27年12月26日まで
委員	関根 勝美	平成25年12月27日から平成29年12月26日まで
教育長	鬼澤 明	平成26年12月27日から平成30年12月26日まで

2. 教育委員会の開催状況

平成26年度における本市教育委員会の定例会及び臨時会の主な活動状況は、下記の表のとおりである。

①教育委員会会議

教育委員会		開催日	議案等	報告等	件名
定例会	4月	26.4.24	4件	2件	議1：銚田市立小中学校評議員の委嘱 議2：銚田市社会教育委員の委嘱 議3：銚田市公民館運営審議会委員の委嘱 議4：銚田市図書館協議会委員の委嘱 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾

教育委員会		開催日	議案等	報告等	件名
定例会	5月	26.5.27	6件	2件	議1：平成26年度銚田市一般会計補正予算（案） 議2：独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金に関する要綱の制定 議3：銚田市教育委員会公印規則の一部改正 議4：銚田市立学校給食センター運営委員会規則の一部改正 議5：銚田市幼児施設設置協議会要綱の一部改正 議6：教育委員会事務局職員の分限休職処分等 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾
定例会	6月	26.6.25	2件	1件	議1：要保護・準要保護児童生徒の認定 議2：銚田市公民館運営審議会委員の委嘱 報1：指定校変更の認定
定例会	7月	26.7.24	4件	2件	議1：平成27年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択 議2：要保護・準要保護児童生徒の認定 議3：銚田市公民館運営審議会委員の委嘱 議4：教育委員会の主な事務の点検・評価 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾
定例会	8月	26.8.22	3件	2件	議1：要保護・準要保護児童生徒の認定 議2：教育委員会の主な事務の点検・評価の議会報告 議3：平成26年度銚田市一般会計補正予算（案） 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾
臨時会	9月	26.9.11	1件	0件	議1：全国学力・学習状況調査結果の取扱い
定例会	9月	26.9.26	1件	2件	議1：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾
定例会	10月	26.10.24	2件	2件	議1：要保護・準要保護児童生徒の認定 議2：平成26年度銚田市一般会計補正予算（案） 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾

教育委員会		開催日	議案等	報告等	件名
定例会	11月	26.11.21	2件	2件	議1：要保護・準要保護児童生徒の認定 議2：平成26年度銚田市一般会計補正予算（案） 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾
定例会	12月	26.12.25	1件	2件 （選挙1） （指定1） （選任1）	議1：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾 選1：銚田市教育委員会委員長の選挙 指1：銚田市教育委員会委員長職務代理者の指定 任1：銚田市教育委員会教育長の任命
定例会	1月	27.1.23	1件	2件	議1：銚田市指定文化財の現状変更許可申請 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾
定例会	2月	27.2.25	5件	2件	議1：平成27年度銚田市一般会計予算（案） 議2：平成26年度銚田市一般会計補正予算（案） 議3：銚田市立幼稚園の設置及び管理に関する条例の一部改正 議4：銚田市1号認定子どもに係る利用者負担額に関する規則の制定 議5：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾
臨時会	3月	26.3.16	2件	1件	議1：学校長等の異動 議2：銚田市指定文化財の現状変更許可申請に係る答申 報1：専決処分の承認
定例会	3月	27.3.25	5件	2件	議1：平成27年度銚田市一般会計予算（案） 議2：平成26年度銚田市一般会計補正予算（案） 議3：銚田市立幼稚園の設置及び管理に関する条例の一部改正 議4：銚田市1号認定子どもに係る利用者負担額に関する規則の制定 議5：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更の認定 報2：区域外就学の承諾

教育委員会 開催件数	議案等 件数	報告等 件数	備 考
開催回数 定例会 12回 臨時会 2回	39件	24件 (選挙1) (指定1) (選任1)	*議-議案, 報-報告, 任-選任, 選-選挙, 指-指定 *件名は省略して表示しております。

②視察・研修等

学校視察 …………… 平成 26 年7月2日(水) 出席委員3名
旭幼稚園, 旭西小学校

平成 26 年7月4日(金) 出席委員4名
銚田幼稚園, 諏訪小学校, 大竹小学校

平成 26 年7月8日(火) 出席委員4名
舟木小学校, 銚田北中学校, 巴第一小学校

平成 26 年7月9日(水) 出席委員4名
大洋中学校, 白鳥西学校, 上島西小学校

会議・研修会 ……… 平成 26 年5月 16 日(金) 出席委員4名
関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会・研修会(長野県)

平成 26 年5月 28 日(水) 出席委員4名
茨城県市町村教育委員会連合会定期総会及び講演会(石岡市)

平成 26 年8月4日(月) 出席委員3名
茨城県市町村教育委員会教育委員研究協議会(水戸市)

③入学式・卒業式

入学(園)式 ……… 平成 26 年4月7日(月) 出席委員4名
串挽小学校, 大和田小学校, 旭西小学校, 上島西小学校

平成 26 年4月8日(火) 出席委員4名
旭中学校, 銚田北中学校, 銚田南中学校, 大洋中学校

平成 26 年4月9日(水) 出席委員4名
旭幼稚園, 銚田北幼稚園, 銚田幼稚園, つばさ幼稚園

卒業(園)式 …… 平成 27 年3月 11 日(水) 出席委員4名
旭中学校, 銚田北中学校, 銚田南中学校, 大洋中学校

平成 27 年3月 20 日(金) 出席委員4名
旭幼稚園, 銚田北幼稚園, 銚田幼稚園, つばさ幼稚園

平成 26 年3月 23 日(月) 出席委員4名
旭東小学校, 徳宿小学校, 新宮小学校, 白鳥西小学校

第3章 点検・評価シート

- | | |
|---------|---|
| 1 教育総務課 | 1 小学校耐震補強及び大規模改造工事【繰越】 |
| | 2 鉾田北中学校区統合小学校整備事業 |
| | 3 鉾田南中学校区統合小学校整備事業 |
| | 4 鉾田北中学校校舎改築事業 |
| 2 指導課 | 5 英語指導事業 |
| | 6 のびのび児童生徒推進事業 |
| | 7 特別支援教育支援員等配置事業 |
| | 8 ことばの教室事業 |
| 3 生涯学習課 | 9 ほこたマラソン記念大会事業
(第10回記念ほこたハーフマラソン大会) |
| | 10 スポーツ推進事業(スポーツ教室) |
| | 11 青少年育成事業(成人式事業) |
| | 12 青少年育成事業(花いっぱい運動事業) |
| | 13 青少年育成事業(子どもふれあい事業) |
| | 14 文化財保護・啓発事業 |
| | 15 家庭教育支援事業 |
| | 16 文化振興事業(美術展覧会開催) |
| | 17 学習等供用施設改修事業 |
| | 18 青少年育成事業(親子木工教室事業) |
| | 19 人権教育事業 |
| | 20 ブックスタート事業 |
| | 21 図書館資料収集事業 |
| | 22 公民館運営事業 |

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		子どもたちの教育環境の向上		所属課	教育総務課
事業名		小学校耐震補強及び大規模改造工事【繰越】			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	169,761 千円
	項	2	小学校費	予算現額	169,761 千円
	目	3	学校建設費	執行額	167,913 千円
	事業	60	小学校耐震補強及び大規模改造事業【繰越】	予算執行率	98.9 %
				事業進捗率	100 %
事業の目的及び今年度の取組み					
<p>目的： 学校施設は、児童が一日の大半を過ごす学習、生活の場であるとともに、災害時には地域住民の応急避難場所であることから、安全で安心な学校教育環境の整備・充実を図る。(銚田小学校、大竹小学校の各屋内運動場は、昭和56年の建築基準法改正による新耐震基準前の建築物であり、耐震補強工事の実施により安全を確保する。)</p> <p>取組み： 平成21年度耐震診断調査により、銚田小学校がIS値0.31、大竹小学校が0.47であったことから文部科学省の耐震基準IS値0.7以上を満たすため耐震補強及び大規模改造工事を実施した。</p>					
目的の達成状況					
<p>本事業の実施により、2校の屋内運動場施設の安全が確保された。これにより市内の学校屋内運動場はすべて基準を満たすことができた。今後、平成27年度末100%整備目標に向けて整備を推進していく。平成27年度には、4小学校の校舎耐震化、14小中幼施設の非構造部材耐震化に取り組み、全学校施設の耐震化が完了する見込みである。</p>					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		児童の安全を守り、良好な教育環境を確保するため学校施設の耐震化は責務であり、耐震補強工事や大規模改造工事をおこなうことは急務である。限られた財源の中で優先度の高い施設から計画的に耐震補強を進め、安全・安心が確保されている。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		学校施設の耐震化及び大規模改造により、良好な学校教育環境と災害時の避難所として安全性が確保できる。		
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		耐震補強工事と大規模改修を同時期に実施することで、工期短縮と工事費の縮減することができる。		
総合評価	市内24校の小中学校施設の耐震化は、国費の上乗せ制度の活用による財源の確保や工事が緊急的かつ計画的に整備がすすめられていることから、今後、学校施設機能を十分に発揮することができる。				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		子どもたちの教育環境の向上		所属課	教育総務課
事業名		銚田北中学校区統合小学校整備事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	485,767 千円
	項	2	小学校費	予算現額	589,644 千円
	目	3	学校建設費	執行額	587,992 千円
	事業	2	銚田北中学校区統合小学校整備事業	予算執行率	99.72 %
				事業進捗率	100 %
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的： 児童のより良い教育環境を整備するため、保護者及び地域住民の合意と協力を得ながら、学校施設再編計画に基づいた小学校の再編計画の推進を図る。</p> <p>取組み： 統合小学校新築工事発注(校舎、外構、プール兼格技場兼体育館)。銚田北中学校と同一敷地内整備。工事工程会議において平成28年1月末竣工にむけ協議調整を図ってきた。 銚田北中学校区小学校統合推進委員会及び6つの専門部会において、学校名称、校章、校歌、歴史的保存、教育課程、学校行事、交流学習、スクールバス運行計画、PTA組織、学校備品、跡地利用等について協議を行ってきた。</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>銚田北小学校校舎等新築工事発注。 銚田北中学校区小学校統合推進委員会、専門部会において、平成28年4月開校に向けた諸課題の協議を進めることができた。</p>					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		少子化の進行により、児童数が減少し、学校の小規模化が進み、一部の学校で複式学級が生じる状況となっており、銚田北中学校区の5つの小学校統合することは妥当性が高い。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		児童のより良い教育環境の充実を図るためにも再編計画に基づいた統合計画を推進することは有効性が高い。		
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		小学校再編計画に基づく統合小学校の建設を推進することで、時代の進展や社会の変化に対応した魅力ある学校づくりができるとともに、施設管理費用の圧縮にもつながり効率性が高い。		
総合評価	小学校を適正規模・適正配置に再編することによって、児童の教育環境の充実を図る事業手法としての統合小学校整備は妥当かつ有効な手法。				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		子どもたちの教育環境の向上		所属課	教育総務課
事業名		銚田南中学校区統合小学校整備事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	252 千円
	項	2	小学校費	予算現額	252 千円
	目	3	学校建設費	執行額	108 千円
	事業	3	銚田南中学校区統合小学校整備事業	予算執行率	42.86 %
				事業進捗率	100 %
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的： 児童のより良い教育環境を整備するため、保護者及び地域住民の合意と協力を得ながら、学校施設再編計画に基づいた小学校の再編計画の推進を図る。</p> <p>取組み： 銚田南中学校区統合小学校建設候補地選定委員会を設置し候補地選定を行った。</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>候補地23か所から3か所に絞り込み、選定委員会で順位付けを行った。 要綱に従って、結果を報告書に取りまとめ、教育長に提出した。 これらを受けて、第1順位の土地所有者への意向調査を行い、建設予定地とすることができた。</p>					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		少子化の進行により、児童数が減少し、学校の小規模化が進み、一部の学校で複式学級が生じる状況となっており学校施設再編計画に基づき統合小学校を整備するものであり妥当性が高い。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		児童のより良い教育環境の充実を図るためにも再編計画に基づいた統合計画を推進することは有効性が高い。		
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		建設予定地は再編計画に沿った中学校に比較的近く、また児童数の一番多い地区にも近い場所が選定され、スクールバスに係る費用の抑制効果が期待できるので、位置的に効率性が高い。		
総合評価	<p>小学校再編計画に基づく銚田南中学校区の統合小学校建設候補地を選定するため、学校関係者、PTA、区長、市役所部長等による協議を行いながら、学校建設地としてふさわしい土地選定作業を進めることができた。 今後、平成31年4月開校に向け基本計画、用地取得、実施設計等を早急に進めなければならない。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		子どもたちの教育環境の向上		所属課	教育総務課
事業名		鉾田北中学校校舎改築事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	1,460,981 千円
	項	3	中学校費	予算現額	1,337,078 千円
	目	3	学校建設費	執行額	1,332,917 千円
	事業	5	鉾田北中学校校舎改築事業	予算執行率	99.69 %
				事業進捗率	100 %
事業の目的及び今年度の取組み					
<p>目的：本校舎については、老朽化が激しく耐震性にも不安があることから、校舎の改築工事を実施することにより、生徒の安全確保及び教育・学習環境の充実を図る。</p> <p>取組み：校舎改築工事 備品購入 テニスコート整備工事 外構工事 多目的グラウンド整備工事</p>					
目的の達成状況					
<p>平成25年度に校舎改築工事を発注し平成26年9月に本体工事の完成。 多目的グラウンド整備を平成26年10月に完成。 備品についても旧校舎で使用したものを極力使用し、備品購入費の圧縮を図った。 個別空調が整備され快適な環境が整えられたことは勿論のこと、そのほか多目的スペースや地域交流室、メディアスペース等の整備が図られ多様な学習環境が整備された。また、校舎中庭にはウッドデッキが設置され学校生活において思い出に残る施設環境が整えられた。</p>					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		老朽化が著しく耐震性にも不安があることから、校舎改築工事を実施する必要性も高く事業の実施の妥当性が高い。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		子どもたちの安全安心の確保、教育環境の充実を図るためにこの校舎改築工事を実施することは有効性が高い。		
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		平成26・27年予定の鉾田北小学校校舎建設を見据えた土地利用、施設整備を図ることができ、施設の小中共用も可能となり効率化が図られた。		
総合評価	<p>本事業は鉾田市総合計画後期基本計画に教育施設・設備の整備として位置づけられ、老朽化した校舎改築の必要性と同一敷地内に鉾田北小学校の整備を見据え、短期間に計画通りの竣工を迎えることができた。同一敷地内に中学校、小学校施設を整備することから、土地利用上、敷地が不足し当初計画で予定をしない多目的グラウンド整備を敷地外へ整備する必要性が生じた。</p> <p>生徒の安全確保及び教育・学習環境の充実を図ることができた。今後は適切な維持管理に努める必要がある。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		指導体制の充実		所属課	指導課
事業名		英語指導事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	21,141 千円
	項	1	教育総務費	予算現額	20,805 千円
	目	3	教育指導費	執行額	19,492 千円
				予算執行率	93.7% %
	事業	1	英語指導事業	事業進捗率	100.0 %
事業の目的及び今年度の取組み					
<p>目的： 文部科学省では生徒の英語力向上を目指し、新たに「生徒の英語力向上推進プラン」を平成27年度に公表した。今後、様々な面で国際化が進展し、国際的なコミュニケーション能力の育成が求められている。児童生徒が広い視野を持ち異なる文化を理解し、また、生きた英語に触れさせることにより基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う。</p> <p>取組み： 各中学校のほか、小学校5・6年生を対象として、外国語指導助手(ALT)を配置し、日本人教師と共に外国語(英語)活動を行った。6人のALTで中学校には毎日、小学校には週1回程度派遣している。</p>					
目的の達成状況					
<p>ALTを活用しての授業の展開を図り、児童生徒が積極的に外国語を聞いたり、話したりすることにより英語の4技能を高め、コミュニケーション能力の育成に努めることができた。</p> <p>小学校1～4年生や幼稚園にALTが訪問し、英語文化にふれる機会を設け、交流を深めた。</p>					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		今後ますます英語教育の重要性は高まってくる。社会のグローバル化に応じて、直接的な英語によるコミュニケーションの機会を設けることは必要である。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		児童生徒にとって外国語指導助手の生きた英語の授業は、興味関心を高め語学力の向上のために非常に効果的である。児童生徒自身に、外国人と接する姿勢や異文化理解の精神が身についてきている。		
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		中学校には1校1名配置し、小学校は1名で複数の学校を訪問するよう工夫している。		
総合評価	ALTの指導により生きた英語を学ぶことができ、読むこと、書くことに加え、聞く、話す力もつけることができる。また、自国以外の人ともコミュニケーションを図る訓練ができ、外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深めることができる。その他、小学校低学年や幼稚園にも訪問し、異文化交流の機会を設けた。				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		児童生徒の健全育成		所属課	指導課																		
事業名		のびのび児童生徒推進事業																					
予算科目	款	9	教育費	当初予算	18,783 千円																		
	項	1	教育総務費	予算現額	18,843 千円																		
	目	3	教育指導費	執行額	18,067 千円																		
	事業	4	のびのび児童生徒推進事業	予算執行額	95.9% %																		
				事業進捗率	100.0 %																		
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的： 児童生徒の心のケア、保護者や教職員に対する支援、基礎学力の向上を図るため、【不登校サポートプラン】、【個性のびのび推進プラン】、【のびのび学習プラン】の3本の柱をもとに教育環境の向上を進める。</p> <p>取組み： 適応指導教室の設置や各校へスクールカウンセラーを派遣することにより、児童生徒の心のケア、学校生活等の支援を行い、家庭生活及び地域社会生活における児童生徒の教育上の諸問題に関する相談業務を行った。また、中学校1年生を対象にQ-Uテストを実施した。 確かな学力を身につけ、主体的な学習や家庭学習の習慣化を図るために、非常勤講師等を配置した。</p>																							
<p>目的の達成状況</p> <p>不登校やいじめ、暴力行為などの児童生徒の問題行動は、児童生徒が心に悩みや不安、ストレスを抱えていることが要因となっている。未然防止や発生した場合の対処のため、スクールカウンセラーなど外部から人材を配置し、児童生徒の問題行動の解消に努めた。 また、学力向上のため、各講師を配置した。 ※学力向上支援講師(市費)4名、学びの広場サポーター(県補助)38名 ※すずらんルームの実績</p> <table border="1"> <tr> <td>H24年度</td> <td>来所相談171件</td> <td>電話相談255件</td> <td>訪問相談24件</td> <td>巡回相談31件</td> <td>計481件</td> </tr> <tr> <td>H25年度</td> <td>来所相談187件</td> <td>電話相談215件</td> <td>訪問相談22件</td> <td>巡回相談55件</td> <td>計479件</td> </tr> <tr> <td>H26年度</td> <td>来所相談171件</td> <td>電話相談195件</td> <td>訪問相談27件</td> <td>巡回相談30件</td> <td>計423件</td> </tr> </table>						H24年度	来所相談171件	電話相談255件	訪問相談24件	巡回相談31件	計481件	H25年度	来所相談187件	電話相談215件	訪問相談22件	巡回相談55件	計479件	H26年度	来所相談171件	電話相談195件	訪問相談27件	巡回相談30件	計423件
H24年度	来所相談171件	電話相談255件	訪問相談24件	巡回相談31件	計481件																		
H25年度	来所相談187件	電話相談215件	訪問相談22件	巡回相談55件	計479件																		
H26年度	来所相談171件	電話相談195件	訪問相談27件	巡回相談30件	計423件																		
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理 由																				
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		適応指導教室講師、生徒指導相談員、スクールカウンセラー等が、専門的な立場で適切な指導助言を行い、子どもたちの健全な育成に資することは必要不可欠な取り組みである。 非常勤講師配置事業は学力向上の支援として効果がある。																				
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		児童・生徒、保護者の教育相談の窓口として、市単位での相談機関はとても有効である。 基礎学力向上のため、きめ細やかな対応ができ有効である。																				
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		スクールカウンセラーは県補助を活用し、中学校には週に1回は派遣できるよう努めている。																				
総合評価	<p>児童生徒の悩みや問題行動は多様化・複雑化するとともに、相談件数は多い状況である。市としての相談窓口は不可欠であり、専門的な立場で適切な指導助言を行い、子どもたちの健全な育成に資する必要がある。 適応指導教室は、子どもたちの心の安らぎが得られる場として、学校と家庭との連絡調整役として取り組んでいる。 スクールカウンセラーの配置により、専門的な立場から児童生徒や保護者、先生に助言・指導を行っている。 Q-Uテストの実施により生徒が抱える心の問題をいち早くキャッチし、早期対策を図っている。関連事業や学校側のフォローにより、中学校において徐々に不登校の生徒数が減少してきている。 非常勤講師の配置により、きめ細かな指導が可能となり、基礎学力の向上や児童生徒それぞれの個性に応じた指導ができた。</p>																						

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		指導体制の充実		所属課	指導課
事業名		特別支援教育支援員等配置事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	10,033 千円
	項	1	教育総務費	予算現額	10,665 千円
	目	3	教育指導費	執行額	10,075 千円
				予算執行率	94.5% %
	事業	9	特別支援教育支援員等配置事業	事業進捗率	100.0 %
事業の目的及び今年度の取組み					
<p>目的： 小中学校等に在籍する教育上特別の支援を必要とする児童生徒に対して、適切な教育（特別支援教育）を行うために、特別支援教育支援員を配置する。</p> <p>取組み： 多動、自閉症、肢体不自由等の支援を要する児童生徒がいる学校に対し、支援員を配置した。</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>障害児就学指導委員会、相談員の学校訪問及び学校からの情報をもとに、幼児・児童・生徒の状況を把握し、特別支援の必要な児童生徒を確認し、支援員を配置した。</p> <p>H24年度 4小学校 1中学校 5名配置 H25年度 7小学校 7名配置 H26年度 7小学校 1中学校 9名配置</p>					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		特別な配慮を要する児童生徒のための配置であり適切と思われる。支援員を配置することで、担任の負担軽減や安定した学級運営を図ることができる。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		支援員配置は、一人一人を大切にされたきめ細やかな教育と効果的な授業の展開や安定した学校運営につながる。		
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		学校の状況に応じて勤務日数や時間を調整しており、効率的に行っている。		
総合評価	<p>個別支援を必要とする児童生徒のため、平成26年度は7小学校、1中学校へ支援員を配置し、学校生活上の介助や学習活動の支援に寄与した。</p> <p>今後も、支援の必要な児童生徒に対しては、支援員の配置をする必要がある。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		児童生徒の健全育成		所属課	指導課
事業名		ことばの教室事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	3,087 千円
	項	1	教育総務費	予算現額	3,087 千円
	目	3	教育指導費	執行額	2,897 千円
				予算執行率	93.8% %
	事業	8	ことばの教室事業	事業進捗率	100.0 %
事業の目的及び今年度の取組み					
<p>目的： 主として就学前の子どもで、ことばに障害を持つものに対して、情緒、行動面等の問題を考慮しつつ改善指導を行うとともに、保護者等への相談指導を行う。</p> <p>取組み： 旭幼稚園内に「ことばの教室」を設置し、次の業務を実施した。併せて各幼稚園からの通級指導を実施した。</p> <p>(1) 言葉に障害を持つ市内の幼児、児童・生徒等の把握</p> <p>(2) 言葉に障害を持つ幼児、児童・生徒等へのカウンセリングの実施</p> <p>(3) 教諭等への指導・助言等</p> <p>(4) その他教育長及び旭幼稚園長が必要と認める事項</p>					
目的の達成状況					
<p>言語等の障がいを持つ就学前の幼児について、早期発見・指導を行うことにより、問題の早期解消を図ることができる。</p> <p>保護者への教育相談や幼児のことば等に関する指導を通して、就学指導や幼児の健全育成に資することができた。</p> <p>H24 旭幼稚園 15名 銚田北幼稚園 5名 市内保育園 3名 計23名</p> <p>H25 旭幼稚園 14名 銚田北幼稚園 5名 銚田幼稚園 2名 つばさ幼稚園 2名</p> <p>H26 旭幼稚園 12名 銚田北幼稚園 8名 銚田幼稚園 4名 つばさ幼稚園 2名</p> <p>市内保育園 6名 計32名</p>					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		言葉に障害を持つ市内の幼児、児童を把握することにより、対象となる幼児等の対応、指導が実施できる。代替機関は近隣にはなく、サービス提供が求められている。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		専門的知識を持つ指導員を配置することにより、対象幼児等の言葉の改善及び保護者への相談が実施できる。		
効率性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		小学校就学前の対応により、早めの対応ができる。就学前に状況を確認することにより、就学時には個別の対応で改善に努めることができる。		
総合評価	<p>ことばの教室の設置及び通級指導により、子どものことばの障がいの改善を図り、成果をあげている。あわせて教員や保護者との相談業務を行ってきた。不安を抱える保護者からの要望は多く、近隣に指導を受ける場所もなく、施策としての必要性は高い。</p> <p>幼稚園に限らず、就学前の幼児(保育園、保育所等)の相談が増えている傾向にあるため、市全体として幼児の相談・指導の体系を整理していく必要がある。また、事業の必要性が高いため、事業を継続していくためにも指導員の確保が課題である。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		スポーツ・レクリエーション活動の充実		所属課	生涯学習課															
事業名		ほこたマラソン記念大会事業(第10回記念ほこたハーフマラソン大会)																		
予算科目	款	9	教育費	当初予算	3,000 千円															
	項	6	保健体育費	予算現額	6,000 千円															
	目	1	保健体育総務費	執行額	6,000 千円															
	事業	5	ほこたマラソン記念大会事業	予算執行率	100 %															
				事業進捗率	100 %															
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的：誰もが手軽に楽しむことのできるスポーツ活動を推進し、生涯を通じた健康づくりと体力の向上のためマラソン大会を開催する。</p> <p>取組み：関係団体等からなる実行委員会を組織し、市職員、市内小中学校教諭、社会体育関係団体等の協力を得て大会を開催している。今年度は第10回の記念大会としてハーフマラソンの部を創設。これまでで最も多い1,965名の申込を記録した。</p>																				
<p>目的の達成状況</p> <p>申込人数: 1,965名、各競技種目別の申込状況は次のとおり。</p> <table border="1"> <tr> <td>ハーフの部</td> <td>(一般男女)</td> <td>600名</td> </tr> <tr> <td>5kmの部</td> <td>(高校生、一般男女)</td> <td>292名</td> </tr> <tr> <td>3kmの部</td> <td>(中学生男女)</td> <td>384名</td> </tr> <tr> <td>2kmの部</td> <td>(小学3年～6年男女)</td> <td>339名</td> </tr> <tr> <td>1. 2kmの部</td> <td>(小学1、2年男女)</td> <td>350名 (175組)</td> </tr> </table>						ハーフの部	(一般男女)	600名	5kmの部	(高校生、一般男女)	292名	3kmの部	(中学生男女)	384名	2kmの部	(小学3年～6年男女)	339名	1. 2kmの部	(小学1、2年男女)	350名 (175組)
ハーフの部	(一般男女)	600名																		
5kmの部	(高校生、一般男女)	292名																		
3kmの部	(中学生男女)	384名																		
2kmの部	(小学3年～6年男女)	339名																		
1. 2kmの部	(小学1、2年男女)	350名 (175組)																		
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理由																	
妥当性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		近年のマラソンブームの中、ハーフマラソンの導入により過去最高の申込となった。市内外から参加があり、遠くは北海道からの参加がありました。 また最高齢は市内在住の87歳女性である。参加者は大会出場のため日タトレニングを重ねており、事業の目的である生涯スポーツ振興の観点から妥当な事業と判断できる。																	
有効性	4 3 2 1 高い <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		ほこたマラソン大会は、参加者2,000名程度の小規模大会ながら、参加者からは大会運営や沿道の声援など好印象の意見が大部分を占める。市内からの参加者も昨年に比べ80名程度増加した。今後、大会の反省点等を次の大会運営に活かし、更に多くの参加者に喜んでいただける大会運営を目指す。																	
効率性	4 3 2 1 高い <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		大会運営費は、参加費、市補助金及び企業からの協賛金を運営費としている。昨年大会から、市からの補助金に対するスポーツ振興くじ助成金(toto助成)を受け一般財源の軽減を図っている。 運営体制面ではハーフマラソン導入のため市職員、市内小学校教諭、社会体育団体等に大会係員としてこれまで以上の協力を得て行ったが、大きな混乱もなく大会を行うことができた。																	
総合評価	第10回記念大会と称しハーフマラソンの部を新たに導入した。コースは市街地から市環状線の外環道路を使用したコースとし、市民に身近な大会とした。 昨今のマラソンブームにより、参加者は過去最高を記録し、市内からの参加者も増加した。 次回大会以降もハーフマラソン大会として大会を行い、市民の健康増進や更なる体力の向上に寄与していきたい。																			

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		スポーツ・レクリエーション活動の充実		所属課	生涯学習課
事業名		スポーツ推進事業(スポーツ教室)			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	681 千円
	項	6	保健体育費	予算現額	933 千円
	目	1	保健体育総務費	執行額	885 千円
	事業	3	スポーツ推進事業	予算執行率	94.8 %
				事業進捗率	100 %
事業の目的及び今年度の取組み					
<p>目的：生涯スポーツ社会の実現に寄与し、スポーツに親しむ機会を提供するためスポーツ教室を開催する。</p> <p>取組み：卓球、バドミントン、クライミングの各教室を開催し、市民が生涯スポーツとして継続していく機会を提供した。 また、新たに小学生6年生に対するクライミング教室を開催した。卓球、バドミントンの競技指導は競技団体(体育協会各連盟)に依頼し、クライミング教室は茨城県山岳連盟の指導者に協力をいただき実施した。</p>					
目的の達成状況					
卓球教室(春季)	10回開催	自由参加	参加延べ人数	223名	
卓球教室(秋季)	10回開催	自由参加	参加延べ人数	258名	
バドミントン教室	8回開催	20名参加	参加延べ人数	160名	
クライミング教室(授業分)	20回開催	小学6年生対象	参加延べ人数	768名	
クライミング教室(夏休み)	7回開催	小学4年生～6年生	参加延べ人数	134名	
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理 由		
妥当性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		市民のスポーツに対するニーズは幅広く、小学生から高齢者まで参加があった。 また、クライミング教室についても体力的に体験が可能な小学4年生以上を対象としている。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		教室の募集対象者は全年齢を対象としている。 募集チラシを体育施設や公民館等に設置し、広報紙や市ホームページにも掲載し幅広く周知している。 また、クライミングを体験した児童の中で自主的にクライミングを継続している子供もいることや、クライミング利用者講習会の受講人数が100名を超えるなど、市民の国体開催への機運醸成にも大きく貢献している。		
効率性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		バドミントン及び夏休みクライミング教室への参加者には、保険料や競技消耗品程度を負担いただき実施している。 クライミング教室の講師については、その競技の特殊性から茨城県山岳連盟に依頼し実施している。		
総合評価	スポーツ教室を開催することにより、市民にスポーツに親しむ機会を提供し、競技団体の指導者と参加者間の交流が図られている。 昨年度から新たに小学生を6年生対象としたクライミング教室及び小学4年生から6年生を対象にした夏休みクライミング教室を実施し、多くの子供たちにクライミングに親しむ機会を提供し、茨城国体時に銚田市で開催される山岳競技のPRにも大きく寄与した。				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		青少年健全育成の推進		所属課	生涯学習課
事業名		青少年育成事業(成人式事業)			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	1,115 千円
	項	5	社会教育費	予算現額	1,115 千円
	目	1	社会教育総務費	執行額	863 千円
	事業	12	青少年育成事業	予算執行率	77.4 %
				事業進捗率	100 %
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的： 20歳を迎えた成人者に対し、祝福と激励を送り、社会人としての責任ある行動をとるよう自覚を促す。</p> <p>取組み： 成人者と次年度成人者の代表16名により、成人式実行委員会を組織し、実行委員長を中心に成人式典の企画と運営を行った。(実行委員会6回開催) 成人式典を平成27年1月11日(日)実施した。</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>成人式典の対象者550名のうち 出席者397名 出席率72.1%であった。 成人者が式典の運営に携わることで、成人者のモラルある行動に繋がった。</p>					
評価項目	高	事業の評価	低	理由	
妥当性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		式典は、大人の仲間入りの行事として定着している。 実行委員会を組織することで、参加者自らが企画・運営することに意義がある。	
有効性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		新成人全てを対象とし、出席率も高い。 目的に対する効果がすぐには見えない。	
効率性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		成人者自らが運営・企画し開催する式典は、若者の考えが反映した式典となる。	
総合評価	<p>成人者自らが式典の企画、運営をすることから、式典がスムーズに行われている。さらに実行委員は前年実行委員からの推薦や紹介など、成人者のネットワークを活用し、担い手を集めるなどの工夫をし、基礎となる組織づくりに取り組んだ。 今回は、実行委員が企画したスライドショーを実施し、思い出の残る成人式を行えた。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		青少年健全育成の推進		所属課	生涯学習課
事業名		青少年育成事業(花いっぱい運動事業)			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	283 千円
	項	5	社会教育費	予算現額	283 千円
	目	1	社会教育総務費	執行額	283 千円
	事業	12	青少年育成事業	予算執行率	100 %
					事業進捗率
事業の目的及び今年度の取組み					
<p>目的： 地域の住民, 児童・生徒の環境美化に対する関心や意欲を高めるとともに, 花づくりを通して地域社会の活性化を促進し, 青少年の健全育成を図る。</p> <p>取組み： 幼稚園, 保育所(園), 小中学校, 希望団体, 職場等に花の種を配布し, 花壇づくりを推進した。 市花いっぱいコンクールを実施し, 優秀な団体を表彰し, 運動の推進を図った。 県主催の花と緑の環境美化コンクールに, 市コンクールの入賞者を推薦した。</p>					
目的の達成状況					
<p>花の種子を54団体に配布した。 市花いっぱいコンクールに28団体が参加し, 特に優れた9団体を県主催花と緑の環境美化コンクールに推薦し, 5団体が入賞している。申込み団体は環境美化への意識が高く, 市内の環境美化運動へとつながっている。</p>					
評価項目	高	事業の評価		理由	
妥当性		4 3 2 1	高い <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い	地域の住民, 児童, 生徒の環境美化に対する関心や意欲は高いが, 市内全体に広がっているとは言い難い。年々参加団体が減少している。市民総ぐるみの運動としていくためには, 市民団体等が中心となり活動するなど検討が必要。	
有効性		4 3 2 1	高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い	種子の配布や市花いっぱいコンクールの実施などで, 市内各所にある花壇が整備され, 環境美化に貢献している。	
効率性		4 3 2 1	高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い	参加者の意欲は高く, 地域の交流や子どもたちの通学時のあいさつ声かけ運動にもつながっている。奉仕活動などを通じて, 親子のふれあいの場となっている。	
総合評価	<p>団体構成員の高齢化により, 種子配布団体が年々減少傾向にある一方でコンクールに新規に参加する団体が5団体あった。周知方法などをさらに検討し, 趣旨の理解を深め, 運動の広がりを図るよう努める。参加団体の環境美化への意識は非常に高い。またコンクールにより評価されることで目的意識を持つことができている。今後は, 市民団体など地域に密着した組織を中心とした活動の展開が必要と思われる。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		生涯学習活動の活性化		所属課	生涯学習課
事業名		青少年育成事業(子どもふれあい事業)			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	15千円
	項	5	社会教育費	予算現額	15千円
	目	1	社会教育総務費	執行額	15千円
	事業	12	青少年育成事業	予算執行率	100%
				事業進捗率	100%
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的：主に小学4年生以上の児童が体験学習などの機会を通し、マナーや仲間への思いやり、郷土を愛する心の育成を図る。</p> <p>取組み：自然環境や施設などの地域資源を活用した学習活動を実施した。 夏休み期間中の児童の居場所(活動場所)づくりとして、体験活動の場を提供した。 学校間・地域間の児童の交流を図った。 地域ボランティアを活用した環境学習を行った。 公民館と共催で親子体験教室を行った。</p>					
<p>目的の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巴川探検隊(7月24日) 環境 ・自然環境活動隊(8月19日) 環境 ・科学の祭典銚田会場(11月16日) 科学 ・「食」の見聞隊(8月26日) 食育 ・ドキドキ探検隊(8月7日) 歴史 ・ウイナーづくり教室(2月28日) 食育, 親子体験教室 <p>上記, 6事業を行い90名の参加があった。</p>					
評価項目	高	事業の評価	低	理由	
妥当性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		保護者から児童の居場所(活動場所)づくりのニーズがある。 参加者の満足度は高い。	
有効性		4 3 2 1 高い <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		対象を市全域の小学校とし、事業の意図と受益者は整合している。 学校教育の体験学習等の施策と、整合できている。 保護者や児童が遊びを通して交流を図った。	
効率性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		費用は受益者負担の原則に立っている。 社協主催事業と日程及び内容の調整をし、重ならないようにしている。公民館との共催で事業を行い、効率化、質の向上に努めた。	
総合評価	<p>異校の児童により編成した班別での自然体験活動など、豊かな心、生きる力の育成を図ることができたと考える。保護者参加型の事業を行うことにより、保護者間の交流が図れた。</p> <p>今後はアンケートの結果等を踏まえ、児童のニーズにあった事業を企画し、参加増を図るとともに、保護者やボランティアなどの人材をさらに活用し、地域の活性化を図るよう努める。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		文化・芸術活動の振興		所属課	生涯学習課
事業名		文化財保護・啓発事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	2,314 千円
	項	5	社会教育費	予算現額	3,374 千円
	目	4	文化財保護費	執行額	3,114 千円
	事業	1	文化財保護・啓発事業	予算執行率	92.3 %
				事業進捗率	100 %
事業の目的及び今年度の取組み					
目的 : 市民が郷土の歴史や文化を正しく理解し, 関心を深め地域に対する誇りと愛情を育む。					
取組み : 埋蔵文化財展示施設をはじめ, 広報誌や活動による周知と保存及び活用。					
目的の達成状況					
文化財展示施設「あけぼの館」夏季休業期間開館(7/23~8/29 月・水・金の15日間) 展示物貸出(市内小中学校7校、市外市町村2件), 社会科校外学習(市内小学校6校) 計356名 市内巡視活動 定期年2回(44カ所), 自然災害調査3回(指定文化財51カ所) 文化財防火デー警防訓練 市指定文化財 彫刻物, 名勝地を対象に消火訓練を実施 周知活動 広報誌による文化財保護の周知(3回) 県指定文化財修理 (建造物無量寿寺本堂, 無量寿寺鐘樓の茅葺きかえ)					
評価項目	高	事業の評価	低	理由	
妥当性		4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		文化財の保護・啓発は極めて公共性が高い。市内の文化財を次世代に承継させていくためにも, 教育として活用していく。	
有効性		4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		児童・生徒が地域の文化財に接することは, 正しい郷土の歴史や文化を理解する一助になる。県指定文化財の無量寿寺本堂・鐘樓については, 修理作業を実施し完了した。	
効率性		4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		文化財の保護は, 経済的な効率性ではかることはできない。 特に小中学生へ現在ある文化財展示施設の利用促進を図り, 文化財保護の必要性を浸透させる。	
総合評価	市内にある貴重な文化財を周知, 活用して, 特に小学生を対象に郷土愛を高めることができた。 県指定文化財である無量寿寺の本堂・鐘樓の茅葺き屋根については, 県と市が補助金を交付して修理を行い, 貴重な文化財を継承することができた。 今後も, 文化財保護の周知・保護・活用を計画的に推進し, 文化財愛護の精神の普及に努める。				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		生涯学習活動の活性化		所属課	生涯学習課
事業名		家庭教育支援事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	776 千円
	項	5	社会教育費	予算現額	776 千円
	目	1	社会教育総務費	執行額	776 千円
	事業	8	家庭教育支援事業	予算執行率	100 %
				事業進捗率	100 %
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的： 家庭の教育力向上を図るため、保護者への学習機会を子どもの発達段階に応じて提供する。</p> <p>取組み： 小学校就学時期の保護者を対象とした講座を11箇所で開催した。 家庭教育に係わる事の少ない父親に対し、家庭教育のあり方について講演会を開催した。 幼稚園及び小・中学校で開設された家庭教育学級に補助金を交付し、活動を支援した。</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>就学時健診に併せて実施している「学童期子育て講座」は、「望ましい家庭教育のあり方」、「入学に向けての親の心構え」などの講演を思春期アドバイザーなどを講師として実施し、保護者が家庭教育の重要性を認識するきっかけづくりを行った。保護者363名が参加した。 PTA会員対象の父親の家庭教育参加促進の講演会には、219名の参加があった。 幼・小・中学校全28校で開設した家庭教育学級においては、全学級生1,002名が4回以上の事業を実施した。毎月、家庭教育だよりを発行し、学級生全員に配布した。</p>					
評価項目	高	事業の評価		低	理由
妥当性		4 3 2 1			目的は明確で、社会教育の中でも上位の施策としている。
有効性		4 3 2 1			子どもの発達段階に応じた事業の開催であるため、概ねの保護者はカバーできている。 家庭の教育力向上に有効である。
効率性		4 3 2 1			専門的知識を必要とするため、人材確保とコスト削減が難しい。 経費及び対象範囲は概ね適正であるが、講師等の人材確保が難しい。
総合評価	<p>家庭の教育力の低下が指摘されるなか、ますます家庭教育学習の機会や地域の教育力の向上が重要となっている。それに対する取組みとして、子どもの発達段階にあわせた学習機会を保護者に提供し、家庭の教育力の向上を図ってきた。 ファミリーサポート等を活用し、託児所を設け、幼い子を持つ保護者が研修会に参加しやすい環境をつくった。また、家庭教育だよりを発行し、研修会に参加できない学級生に対しても情報提供を行った。 今後も効率的に、多くの保護者が参加できるような事業の継続が必要であると考える。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		文化・芸術活動の振興		所属課	生涯学習課
事業名		文化振興事業(美術展覧会開催)			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	81 千円
	項	5	社会教育費	予算現額	81 千円
	目	1	社会教育総務費	執行額	81 千円
	事業	2	生涯学習総務費	予算執行率	100 %
				事業進捗率	100 %
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的：運営委員会を中核組織として、市民の芸術創作活動の発表を奨励し、市民が芸術に親しむ機会を創出する。</p> <p>取組み：共同開催による市美術展覧会の運営及び周知に関する財政支援。</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>展覧会を12月10日～12月14日の5日間、銚田市中央公民館で開催した。</p> <p>出品数は計155点(絵画、書、写真、工芸美術の部)</p> <p>来場者数は計363名(5日間)</p>					
評価項目	高	事業の評価	低	理由	
妥当性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		展覧会は市民にとって芸術創作作品の発表の場として地域文化の振興を担っている。芸術活動の環境づくりのために必要である。	
有効性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		市民が最も身近に出品、鑑賞できる展覧会になっている。また、市が開催している唯一の展覧会でもある。	
効率性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		展覧会開催には、運営員・参加者等が設営から撤去まで携わっており、効率化が図られている。最終的には、市民が自主開催できるよう運営員の能力向上と出品者の掘りおこしが必要である。	
総合評価	出展者の固定化が進んでいるが、市内高校へ出展を呼びかけたところ、多くの若い世代の作品が並び、前回展より若干であるが出展数は増化した。しかし、出品者・来場者ともに増やしていけるよう、ホームページ・チラシ・ポスター等で周知活動が必要である。				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		生涯学習活動の活性化		所属課	生涯学習課
事業名		学習等供用施設改修事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	13,403 千円
	項	5	社会教育費	予算現額	12,349 千円
	目	5	学習等供用施設費	執行額	11,761 千円
				予算執行率	95.2 %
	事業	2	学習等供用施設改修事業	事業進捗率	100 %
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的： 老朽化した学習等供用施設(防衛省補助で建設)の空調設備の復旧工事に取り組み、学習環境の整備を図る。</p> <p>取組み： 空調改修工事及び太陽光発電システム設置工事:鳥栖地区学習等供用施設</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>銚田地区内の学習等供用施設の空調改修工事及び太陽光発電システム工事を実施した。</p>					
評価項目	高	事業の評価	低	理由	
妥当性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		地区集会施設の空調設備をセントラル空調から個別空調に切り替えたことにより、電気代の節約や維持管理がしやすくなった。 また、太陽光発電システムの導入は、環境負荷の軽減に繋がった。	
有効性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		学習環境が整備され、地域住民の交流の拠点として利用促進が図れた。	
効率性		4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		太陽光発電と個別空調により電気料の軽減と環境負荷の軽減が図れた。	
総合評価	防衛省の補助事業で整備された施設だが、老朽化が目立ってきた。空調設備の取替えや傷んでいる箇所の改修を行い、利用環境を整備することにより、地域住民の集会や学習の場としての活用増が期待できる。				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		生涯学習活動の活性化		所属課	生涯学習課	
事業名		青少年育成事業(親子木工教室事業)				
予算科目	款	9	教育費	当初予算	1,196 千円	
	項	5	社会教育費	予算現額	1,196 千円	
	目	1	社会教育総務費	執行額	1,180 千円	
	事業	12	青少年育成事業	予算執行率	98.7 %	
				事業進捗率	100 %	
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的： 児童の健全育成に資するため、間伐材を利用した学習機の制作を通して、物づくりの楽しさや物を大切に作る心の形成、また、自然環境の保護意識の高揚を図る。親子のふれあいの場を提供する。</p> <p>取組み： 次年度就学予定の子と保護者を対象に、間伐材を利用した「学習機(本棚つき)」と「いす」の製作を行った。</p>						
<p>目的の達成状況</p> <p>募集50組に対し、64組の申し込みがあった。 製作過程の中で親子がふれあい、物を作り上げる達成感を味わえる場の提供が図られた。 間伐材を利用した物づくりは、木のぬくもりを感じながら、環境教育への取組が図られた。</p>						
評価項目	高	事業の評価	低	理由		
妥当性	4	3	2	1	機が必要になる就学予定児を対象にしている。	
	高い	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低い
有効性	4	3	2	1	これから就学する子どもに、親とふれあいながら自分の手で自分が使う机を完成させる意義は高い。 材料は、間伐材を使い、環境に配慮している。	
	高い	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低い
効率性	4	3	2	1	事業の実施時期、対象年齢共に適正である。受益者負担については、市民間の公平性の観点を考慮した設定をかんがみ、2千円から3千円に増額を行っている。 (材料費は2万円)	
	高い	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低い
総合評価	<p>自然環境に配慮した材料(間伐材)を使い、親と子が協同して、楽しみながらものをつくる意義は高いといえる。 組立ての手順を互いに参加者同士で確認するなど、参加者間の交流が図られた。 職員のほかに、建築関係者や高校生ボランティアの協力が加わり、作業の苦手な方へのサポートが十分に行き届いた。</p>					

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		人権尊重の推進		所属課	生涯学習課
事業名		人権教育事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	584 千円
	項	5	社会教育費	予算現額	584 千円
	目	1	社会教育総務費	執行額	405 千円
	事業	5	人権教育事業	予算執行率	69.3 %
				事業進捗率	100 %
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的： 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律に基づき、全ての市民が人権問題を正しく理解し、認識を深めることにより、人権意識の高揚を図る。</p> <p>取組み： 人権問題講演会を開催。 銚田市人権啓発ポスターコンクールの開催、講演会開催にあわせての展示。 人権啓発街頭キャンペーンの開催、関係団体に参加の呼びかけ。 各種団体の研修会に参加。 他団体の会議にあわせて人権啓発物を配付。</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>銚田市人権啓発ポスターコンクール 121点の応募作品の中から優秀な作品13点を表彰。 各種団体の研修会に参加し、人権問題の認識を深めた。 人権問題講演会を開催し、市民、教育関係者、行政職員などが参加(247名)</p>					
評価項目	高	事業の評価	低	理由	
妥当性		4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		法律に基づいて、人権教育及び人権啓発の推進を図るために、多様な学習機会や手法で取り組んでいる。	
有効性		4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		講演会や研修会、ポスターの制作・展示や街頭キャンペーンなど、多様な学習機会や活動を通じて、あらゆる市民を対象とし、意識啓発を行っている。	
効率性		4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		講演会は多くの市民等を対象とし実施しているため、とても効率的である。また、ポスター制作は直感的に人権問題をとらえる感性が磨かれ、人権尊重の精神を育てている。	
総合評価	<p>今後も多様な人権問題の学習機会の提供や啓発活動を実施することにより、人権の意義や、重要性を知識として身につける環境を充実していくことが必要である。多くの市民を対象とする人権講演会を今後も引き続き実施する。 他団体の会議にあわせて人権啓発物を配り、人権意識の高揚を図っている。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		図書館機能の充実		所属課	図書館
事業名		ブックスタート事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	671 千円
	項	5	社会教育費	予算現額	671 千円
	目	3	図書館費	執行額	377 千円
	事業	4	ブックスタート事業	予算執行率	56.18 %
				事業進捗率	94.8 %
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的 : 赤ちゃんと保護者を対象に, 絵本を開く楽しい体験を通し, 心ふれあうひとときをつくる。</p> <p>取組み : 読み聞かせと絵本の配付</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>実施率94.8% (対象者291人中276人に実施)</p>					
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低		理由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		読み聞かせは, 親子のふれあいを深め乳児の心を育てる機会となり対象者の94.8%に実施できた。		
有効性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		事業は5年目に入り, 子育て支援とあわせて図書館の利用促進に成果がある。		
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		健康増進課による乳児健診時に併せて実施した。読み聞かせは, ボランティアの協力を得て実施した。		
総合評価	<p>地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者が, 絵本を介して, 家庭において心触れあうひとときを持つきっかけづくりとなり, あわせて本に親しむ習慣づくりが図られている。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施策名		図書館機能の充実		所属課	図書館
事業名		図書館資料収集事業			
予算科目	款	9	教育費	当初予算	5,008 千円
	項	5	社会教育費	予算現額	5,008 千円
	目	3	図書館費	執行額	4,943 千円
	事業	4	図書館資料収集事業	予算執行率	98.7 %
				事業進捗率	100 %
<p>事業の目的及び今年度の取組み</p> <p>目的：図書館資料を計画的に収集し、利用者の閲覧及び貸出に供する。</p> <p>取組み：図書館資料選定基準の選定方法及び収集方針に基づき収集した。</p>					
<p>目的の達成状況</p> <p>○市民のニーズの把握や、話題作、新刊の充実に努めた。 一般書 1,202冊 児童書 605冊 紙芝居 3点 DVD 70点 CD 32点 雑誌 34誌 新聞 8紙</p> <p>○入館者数 40,093人 貸出冊数 一般書 50,394冊 児童書 27,682冊 紙芝居 1,529点 雑誌 1,916冊 ビデオ 714点 DVD 7,685 CD 6,317点</p>					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理由		
妥当性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		各分野にわたりバランスよく収集した。 市民のニーズが高い話題作や新刊、利用者のリクエストに応え資料の充実に努めた。		
有効性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		奉仕人口一人あたりの資料費が、県内各図書館との比較では、低い数字である。		
効率性	4 3 2 1 高い <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		図書館電算システムの導入により、図書資料の貸出・返却効率化が図られた。 旭文庫、大洋文庫との回送システムにより、利用者の利便性を図っている。		
総合評価	<p>市民の生涯学習の拠点施設として、図書館サービスの向上を図りながら、広範囲な分野の資料を計画的に収集し、利用者のリクエストにも応えながら一般の利用に供することにより、読書意欲の高揚が図られている。</p> <p>また、図書館情報ネットワークを活用し、茨城県内図書館間の相互貸借により、利用者の利便性を図っている。</p>				

平成27年度 教育委員会の点検・評価シート(平成26年度事業)

施 策 名		地域資源を活用した生涯学習の活性化		所属課	公民館
事 業 名		19 公民館運営事業			
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	4,762 千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	4,762 千円
	目	2	公民館費	執 行 額	4,117 千円
	事業	3	公民館運営事業	予 算 執 行 率	86.5 %
				事 業 進 捗 率	100 %
事業の目的及び今年度の取組み					
<p>目 的：青少年・成人・高齢者を対象に各種教室，講座や地域資源の活用を踏まえた事業などを実施し，市民の広範囲な年齢層に参加を促すため，自主的な学習活動の支援や発表会，講演会等を行うことで，生活文化の振興，社会福祉の増進に寄与する。</p> <p>取組み：公民館運営審議会の開催（2回） 〔青少年教育〕親子体験事業の開催 〔成人教育〕定期講座5講座，単発教室3教室の開催 〔高齢者教育〕高砂大学(旭地区)，いきいき大学(鉾田地区)，寿大学(大洋地区)の開催 〔文化芸術〕文化講演会の開催 〔常設展示〕公民館講座及び定期クラブ等の作品展の随時開催</p>					
目的の達成状況					
<p>公民館運営審議会：2回開催（事業の進捗、利用状況，次年度事業計画等について審議） 青少年教育：ウイナー作り教室（1館） 7組17名の参加 成人教育：定期講座（はじめての中国語，手作りパン，バスケタリー，パソコン，すこやか健康体操） 開催回数7回～10回 延べ49回，603名参加 単発教室（巻き寿司，季節の寄せ植え，フラワーアレンジメント正月飾り） 開催回数1回～3回 延べ8回，77名参加 高齢者教育：各地区5回開講 高砂大学 延べ335名，いきいき大学 延べ198名，寿大学 延べ676名参加 文化芸術：文化講演会1回 延べ140名参加 常設展示：鉾田中央公民館11団体（延べ11回），大洋公民館4団体（延べ5回）開催</p>					
評価項目	高 ◀ 事業の評価 ▶ 低		理 由		
妥 当 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		公民館が市民一人ひとりの自由な意思による学習意欲や向上心を養うための教育活動の場，学習の機会の情報発信地となっている。		
有 効 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		自主活動団体等の紹介や，定期講座や教室を開催することで，市民の生涯学習へのきっかけづくりができる。また，広く市民に生涯学習活動の場を提供できることから，地域の文化振興への貢献度は高い。		
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		自発的な仲間づくりによるクラブ活動や地域の各種団体等の協力を得て実施するなど，コスト削減に努めている。		
総合評価	<p>各種講座や教室の開催により，市民の自主的な学習意欲の向上と仲間づくりを通じた生きがいづくりの推進に努めた。 定期講座の一部については，自主活動団体へ移行され，文化振興の向上が図れた。</p>				

第4章 評価委員の意見

○教育委員会の活動状況

- ・地方教育行政法の改正に伴い教育委員会制度の見直しを施行するにあたり、教育の独立性、中立性に鑑み教育の尊厳と崇高な目的を損なうことなく、より一層民主的な運営がなされるよう委員各位の自覚と積極的な取り組みを期待したい。
- ・地域の実情と将来性を見直して計画的、組織的な展開が望まれる。
- ・管下の教職員に学力向上、生徒指導、施設設備の充実、勤務体制強化等の意欲的支援、指導助言、条件整備が施せるよう事務局との円滑な関係を保ちながら活動展開を進めてほしい。
- ・年 12 回の定例会、2 回の臨時委員会の開催は適切であると考え。各学校・園それぞれへの視察が行われているが、幼稚園・中学校は 2 校ずつなのに対して、小学校は 7 校となっている。適切な配分で視察がなされることが好ましいと考える。会議・研修が不定期であるが、定期的な参加の機会を設けることも検討する必要があると考える。
- ・学校現場の力強い後ろ盾としてサポートできる教育委員会でいていただきたい。

1 小学校耐震補強及び大規模改造工事【繰越】

- ・児童、生徒にとって、常に安全、安心できる学習・生活の場が確保できることは重要である。
- ・特に学校施設の耐震補強、大規模改造工事は緊急欠かせない課題でありそれが鋭意推進されたことは喜ばしい。
- ・今後も継続的、計画的に点検を強化し、安全・安心な施設、設備の充実に努められたい
- ・子ども達の安全を確保するためにも新耐震基準に則した補強工事の実施は急務であると考えられる。大規模改修をすることで教育環境の向上を図ることに関しては、子ども達がより質の良い学校生活を送るための要素の一つであり、27 年度も継続して取り組むことが良いと考える。
- ・大竹小・鉾田小の屋内運動場の耐震補強工事・大規模改修の完了により、市内の学校の屋内運動場が基準を満たすことができたことは、児童の学習面だけでなく地域住民の避難場所としての安全確保のためにも大変有意義である。

2 鉾田北中学校区統合小学校整備事業

- ・小学校の適正規模、適正配置に再編することによって、児童のより良い教育環境の整備、充実に係る事業推進が関係方面の積極的努力により、スムーズに展開されたことは喜ばしい。
- ・今後は他地区の小学校統合事業の推進役として一日も早く竣工、開校が望まれる。
- ・子ども達の教育環境の整備のため、施設を充実させることは望ましいことである。また、当初予算は校舎建築工事のみの計上でしたが、工事発注までに併せてプール兼格技場兼体育館、外構工事のための増額補正があり予算現額の増加がみられた。

これは、プール兼格技場兼体育館の設計の見直しによるものが主な理由であった。

- ・平成28年4月開校に向けての準備が着々と進んでいることは大変望ましい。他地域での実践状況も参考にしながら、閉校や合併に伴って予想される様々な課題事項をさらに洗い出し、順調に開校できるよう努力して頂きたい。

3 銚田南中学校区統合小学校整備事業

- ・小学校再編計画に基づき、銚田南中学校区の統合小学校建設候補地が選定できたことは、当計画推進の順調な流れを促進する上で有意義であり、関係者の積極的な努力に敬意を表したい。
- ・今後は、これが一日も早い実現をめざし諸条件の整備に努力されることを期待したい。
- ・子ども達の教育環境の整備のため、小学校の再編計画の推進は意義のあることである。候補地選定や意識調査等、丁寧に行われていることは地域の中の施設においては不可欠であり、適切に行われていることと思われる。今後は、開校年度に合わせて計画を進めることが望まれる。
- ・地盤の安全性やスクールバスの費用の抑制効果も期待できる場所に建設予定地が決定したことは、よかったと思う。さらに安全性や学校としての機能が高まるような取り組みを進めて頂きたい。

4 銚田北中学校校舎改築事業

- ・市の総合計画に伴い、教育施設、設備の整備・充実を銚田北小学校の建設と相俟って安全確保と学習環境の充実を図ることが出来たことは、時節を得た事業であると言えるであろう。
- ・今後は、適切な維持管理と効果的な運用に努める必要性があろう。
- ・子ども達が安全・安心な環境の中で生活するために、耐震診断に基づいた耐震補強工事は重要な施策である。また、学校施設は在籍する子どもだけでなく近隣住民にとっても通常時および災害時における避難所等として重要な役割を果たすことが求められている。今後とも定期的に点検および確認していくことが望まれる。
- ・短期間に計画通り竣工を迎えることができたことは望ましい。

5 英語指導事業

- ・英語力の向上を目指す国の施策とグローバル化の進展とともに、国際的コミュニケーション能力の育成が求められている折、児童生徒の広い視野、異なる文化の理解、基本的な表現に慣れ親しむ能力開発を考えると、ALTの存在効果は大きい。従って可能な限り、ALT配置拡大と有効活用の努力が必要である。
- ・教員の研修を重ね、英語指導能力の向上に努めることは、ALT配置拡大と共に重要である。特に、小学校への英語免許有資格者の配置も年々考慮する課題であろう。
- ・国際化社会の中で、外国語や外国文化について学ぶことは大変意義のあるものである。幼稚園や小学校から慣れ親しみ、子どもたちの将来に生かせる英語教育を継続することが望ましい。本格的に教科として英語が取り入れられる中学校においては、一校に一名、毎日ALTの派遣があるなど校種に合わせた派遣を行う対応は、今後も継続することが望まれる。

- ・AL Tの確保と活用は重要な取り組みであると考えている。今後は、さらにAL Tのレベル向上のための手立てを十分にしていきたい。

6 のびのび児童生徒推進事業

- ・児童生徒の心のケア、保護者や教職員に対する支援、基礎学力の向上を図るために適応指導教室の設置、充実、スクールカウンセラーの派遣、更には非常勤講師の派遣は、など重要な事業として一層の推進を図りたい。
- ・スクールカウンセラー等の外部の人材を活用し、多様化する悩みや問題行動に対応する体制づくりが進み、子どもたちの相談窓口が広がっていることは大変意義のあるものである。学力向上に対応した講師派遣は、学級内で学力面でのつまずきがある子ども達に対して個別指導が可能になり、有効なサポート源になると思われる。すずらんルームの相談件数の減少に関しては、特に電話相談件数が年々減少している事について、利用のしやすさ等を検討する必要があると考える。
- ・予算の都合もあるが、Q-Uテストは他の学年でも実施できるとよいと思う。
- ・学校関係者以外に相談できる人や場所があることはとても有効であるので、適応指導教室やスクールカウンセラーと学校との連携をさらに強化していきたい。

7 特別支援教育支援員等配置事業

- ・教育上、特別な支援を必要とする児童生徒に対して、特別支援教育支援員の配置を行い、担任の負担軽減や安定した学級経営を図ることに効果を示したことは、きわめて有意義であり、今後も継続して支援員を配置する事は重要である。
- ・必要とされる学校に、安定して支援員を配置していることは望ましい。一人一人の児童生徒が、学校生活に適応して過ごすことを支援するためには重要な事業である。支援員の人数が年々増員されており、ニーズの多さがうかがえる。今後も支援を要する子ども達へ、派遣を継続することが望まれる。
- ・人材確保については、専門的知識を有する教育・心理学専攻の学生や教育・心理学を学んだ者を募る工夫が必要であろう。そのためには、支援員の採用基準等を定めた上で人材を募ることが望ましいと考える。
- ・通常学級在籍で支援が必要な児童は増加していると思う。必要な児童に対して支援員の配置が十分にできるような対策をお願いしたい。
- ・発達障害等、要支援児童に対する保護者の理解が進むような対策は、入学後では遅すぎることも多く、教育委員会だけの取り組みでは無理がある。市の取り組みとして各部署が連携して取り組めるよう工夫してほしい。生まれてから成人するまでの本人や保護者への支援計画が確実に実践できるよう、様々な検診時期を逃さず実践工夫していただきたい。

8 ことばの教室事業

- ・ことばの教室開設の歴史的経緯をふまえて、旭幼稚園のみでなく他の地区への教室設置の推進を図ることは、この種の事業の推進を図るために考慮する必要もあろう。
- ・幼稚園と小学校の連携を更に強化し、実態の把握と早期指導、治療が望まれる。
- ・ことばの教室の専門的指導員の確保は緊急課題の一つであろう。
- ・就学以前から準備が出来ることは意義のあるものである。保護者とのカウンセリン

グを通して、より良い進路選択ができるように援助していくことが望まれる。実績を見ると、幼稚園児に限らず保育園等の就学前幼児からニーズの増加が見られる。その支援を必要とする人々を受け入れるための体制作りを行ったことは意義深いことである。後継者の育成・人材の確保については、引き続き検討することが望まれる。専門的知識を有する学生や保護者を募る等の工夫が必要であろう。

- ・小学校入学前にことばの教室で学べる取り組みはすばらしい。市全体の取り組みとして相談・指導体制ができるようお願いしたい。

9 ほこたマラソン記念大会事業（第10回記念ほこたハーフマラソン大会）

- ・記念大会の開催はもとより、大会参加人数の増加は住民に親しまれ、期待されている事業として定着しつつあるものとして評価したい。
そのためにもコースの検討や運営体制の改善などは、住民の要望をとり入れたものとして大切であった。
- ・市民参加増加の傾向は、今後も大会の盛り上がりとして期待したい。
- ・一層安全に配慮しながら参加出場する者、応援する者、運営する者、三者一体となり更に特色のある本市スポーツの一大イベントとして定着させたい。
- ・幅広い年齢層と市内外在住者を対象としているため、市の活性化につながる事業であると思われる。前年度に比べ、市内外からの参加者が全体的に増加しており、広報や内容の検討が良くなされたことがうかがえる。ハーフマラソンの導入により協力機関も増えたとのことで、理解と協力を得るために引き続き丁寧な説明を行っていくことが必要となるであろう。
- ・ハーフマラソンの導入により参加者の増加があったが、大きな混乱もなく実施できたことはすばらしい。過去の経験が生きていると思う。
- ・地域住民の参加も大切だが、他地域からの来訪者への町のピーアールの場でもあると思う。沿道の応援や地域物産のアピールなど、さらに楽しい雰囲気であればよいと思う。

10 スポーツ推進事業（スポーツ教室）

- ・新たにクライミングが国体との関連によってそれが普及に努めたことは、この種の競技に関心のうすい本地域にあって有効であった。
- ・施設の確保、安全性の確保に留意しながら一層充実させてほしいと期待する。
- ・競技団体の指導者と交流を図り住民の要望に応じて運営することは、いずれの種目教室でも配慮されなければならない。
- ・スポーツは心身にとって大変有用である。また、地域における交流の場としても期待ができる。教室対象種目の選定に当たり、体育協会各連盟のような外部機関とも協力して、より質の良い教室を行うことができたと思われる。今後も、そのような専門的な機関と連携することで、教室対象種目の選定や運営の幅が広がる一方、それぞれの特色を生かした運営等、各種目に合わせた対応が求められる。
- ・全小学6年生が授業でクライミング体験できたことは、とてもよかったと思う。クライミングに対する関心と意欲が高まった。国体のクライミング会場として、よりよい体験活動になったと思う。

11 青少年育成事業（成人式事業）

- ・工夫改善の姿が見られ、成人の意識によってモラルある行動が各々の生活行動として定着することを期待したい。
- ・新成人が運営に関わることは、社会人としての自覚を促すことに繋がっており、意義のあることである。式典の出席者も、人生の節目・成長を実感する機会になると考えられる。実行委員の担い手の確保については、前年実行委員のネットワークを活用するなど若者の中で推薦や紹介が行われる工夫がなされていて、当事者の自主性を促進する方法であると考えられる。
- ・参加者自らが企画・運営するという取り組み方は、大変意義があると思う。成人することはどういうことか一人一人が自覚して参加できるような式典になるように今後も工夫実践してほしい。

12 青少年育成事業（花いっぱい運動事業）

- ・ある一部の地域や団体の関心興味にとどまることなく、より広い範囲の地域住民の日常生活の中で環境美化の習慣化をはかりたい。
- ・コンクールの意義と方法の検討の必要はないだろうか。
- ・住民の意識の改革と共に、地域に蜜着した組織活動、リーダーの養成などが急務か。
- ・学習環境だけでなく、情操教育の点からも、環境美化は必要であると思われる。コンクールへの参加など、目的をもって活動する仕組み作りがなされており、意欲をもって参加しやすい環境が整えられている。しかし、市民全体へ活動を広げる方法を検討する必要があると思われる。若者の参加に関しては、広報をはじめ、例えば市内小・中学校の子ども達へ活動を体験する機会を設ける等、より身近な活動にしていくような方法を検討することが望まれる。
- ・参加団体が減少している理由をよく検討し、町の美化に役立つ取り組みがより広がる工夫をお願いしたい。

13 青少年育成事業（子どもふれあい事業）

- ・異校間交流、親子ふれあい体験、自然環境、施設などを利用した諸活動等、今日こそ望まれる事業である。
- ・参加者にとって忘れがたい貴重な思い出としていつまでも心に残る事業であろう。それだけに出来るだけ多くの児童生徒が参加できるよう配慮されたい。
- ・ボランティアの養成、確保が大切。
- ・子ども達の交友関係の広がりが期待でき、共同体験や社会的スキルを学べる点で重要な施策である。また、自然と触れ合う機会を得ることができ、子どもの学びに大いに役立つ事業であると思われる。保護者の参加も促すことで、保護者同士の関係づくりの場として機能することも期待される。学生のボランティアや近所住民が参加することで、地域のつながりが活性化されると思われるため、職員以外の人材の活用についてのさらなる検討が望まれる。
- ・参加者の満足度が高いことは素晴らしいと思う。同じ参加者が何度も参加していることはよいと思うが、より多くの参加者が活動できるような情報発信や内容のさらなる工夫をお願いしたい。

14 文化財保護・啓発事業

- ・郷土の歴史や文化を理解し、関心を深める事業としてより多くの市民が参加できる手立ての工夫。
- ・文化財愛護の精神、普及活動の推進。
- ・文化施設の保護、有効活用の研修と広報活動。
- ・郷土の文化や伝統を知ることが、地域に対する思いをはぐくむことにつながると思われる。教育場面において一層活用されることが望まれる。さらに、外部の専門家を活用することが、文化財の活用促進に繋がると考える。
- ・「鉾田市にはどんな文化財があるのか」との問いに、市民としてすぐに答えることができるような啓発の場をさらに強化して頂きたい。

15 家庭教育支援事業

- ・家庭内における教育力の低下や希薄な人間関係による課題が大きい。今日、この事業のより充実と普及が望まれる。
- ・PTA、家庭教育学級、父親学級など多くの機会を生かしてより魅力ある研修が企画され、より多くの参加者に呼び掛けて、学校と家庭との密なる連携、教師と保護者、保護者相互の豊かな人間関係が醸造されるよう努力が必要。
- ・子育てに関する事柄への関心は高く、親子関係に悩む家庭の多さがうかがえる。保護者の学習の機会を作るという視点から行う講演会は、意義ある事業であると考えられる。また、家庭教育便りの発行など全校に向けて広報を行っており、保護者が子育ての知識を獲得したり、講演会などの情報を得たりする貴重な機会となっている。人材確保に関しては、専門家の登用をするとともに、祖父母などの子育ての先輩世代の協力を得ることも考えられる。
- ・家庭の教育力の低下が懸念される中、保護者が家庭教育の重要性を認識し、自らの家庭教育を振り返ったり、よりよい家庭教育の実践を目指して努力することは重要である。そのきっかけづくりとして、各講座の実施や家庭教育学級の活動が、よく実践できていると思う。託児所を設けるなど、参加しやすい環境づくりもよい。

16 文化振興事業（美術展覧会開催）

- ・作者、作品の掘り起こしによって誰でも気軽に参加、出品できる展覧会の開催。
- ・作者、見学者、運営者、三位一体となつての展覧会開催。
- ・参加者の自主的、積極的な運営。
- ・文化芸術に親しむことは、市民の生活の質（QOL）の向上の一助となると思われる。高校への出品を呼びかけたことは、出品者の多様化を推進する第一歩であると思われる。来場を促せるような広報の検討が必要であるが、様々な年代・属性の市民が足を運びやすい開催日程を設定するという視点での検討も必要であると考えられる。
- ・一般の出品者・来場者を増やす工夫はさらに必要だろうと思う。

17 学習等供用施設改修事業

- ・老朽化した学校等供用施設の整備改修の促進。
- ・住民の学習意欲の喚起と積極的活用。

- ・防衛省補助に対する要望活動の展開。
- ・地域住民の集会や学習の場を整備することで、市民の学習や交流の機会の創造につながると考えられる。空調整備により利用が促進されたとの報告もあり、今後は施設活用の具体案を検討しながら、引き続き施設の老朽箇所の改修を行っていくことが望まれる。

18 青少年育成事業（親子木工教室事業）

- ・親子が共通の目的をもってふれあい学習し物づくりの楽しさや物を大切に作る心を育み、自然環境の保護意識の高揚を図る取り組みは将来にまでぬくもりをもって、忘れられない貴重な思い出となるであろう。
- ・こうした得難い体験活動を実に多くの親子に味わわせたい。
- ・指導者、ボランティア及び材料の確保に努める。
- ・木工作品の制作を通して親子で触れ合う機会が提供できており、意義がある事業であると思われる。申し込みが定員を超えており、市民への広報が功を奏していると思われるが、定員よりも多くの申し込みがあったことに関し、何らかの対応を考える必要がある。また、職員だけでなく、建設関係者や高校生ボランティアの協力が得られたことで、地域のつながりにも貢献したと考えられる。
- ・募集人数を上回る申し込みがあったのは事業内容がニーズにあったからであろう。提供されている材料の値段に対しての受益者負担額は適切であったと思う。

19 人権教育事業

- ・特定の人々の関心事ではなく、より多くの市民がこの問題に対する正し理解と認識を深め人権意識の高揚を図る。
- ・そのためにも、あらゆる場、あらゆる機会を通して計画的、継続的に啓発活動を展開する。
- ・学校教育における人間教育の積極的な啓発活動を進める。
- ・人権教育及び人権啓発の推進は、市民の人権意識の高揚に有効であると思われる。ポスター掲示は身近な啓発活動であり、ポスターコンクールへの参加・掲示は重要な推進活動の一つであると考ええる。啓発物配付も、市民にとっては興味を持ちやすい広報活動であると考ええる。講演会参加者に関しては、今後も一般市民の参加を促す取り組みについて検討することが望まれる。
- ・人権問題講演会の講師選定は難しいと思うが、今後も工夫して参加して良かったと感じる講演会を実施してほしい。

20 ブックスタート事業

- ・絵本を通して母と子の心をつなぐ、楽しい体験は子どもたちの成長にとって貴重なものであろう。一層の普及を望みたい。
- ・異なった分野（担当）異なった課との相互連携によって共通した事業を推進することは行政活動全体の活性化のために有効であろう。
- ・事業を更に効率的に進めるためにボランティアの活用を期待したい。
- ・絵本の読み聞かせを通して、親子の関係を深めることができる機会になると思われる。健診時に実施する工夫もあり、実施率が高い水準である。子育て支援及び図書

館の利用促進の成果が報告されているが、今後も活動の意義を周知していくことが望まれる。

- ・すべての赤ちゃんと保護者が体験できる点が素晴らしい。図書館利用促進のためのさらなるフォローアップを工夫してほしい。

21 図書館資料収集事業

- ・市民の生活、学習拠点施設としての図書館の存在意義は大きく、市民の期待度は大きい。
その効果的な活用に努力されている姿は感じられるが、更に充実強化、円滑な運営のための職員体制の整備が望まれる。
- ・幅広い教育資料の配備は、地域社会全体にとって意義あるものであり、読書意欲の高揚に役立っているという報告があった。今後も、ニーズに合わせた図書の充実が求められる。
また、図書館をより一層活用してもらうための広報努力が望まれる。

22 公民館運営事業

- ・市民の広範囲な年齢層の参加を求めて開催実施している発表会、講演会、各種講座や教室の成果が市民の仲間づくりや生きがいづくりを通して文化の振興、福祉の増進に貢献していることは明らかである。
- ・受講生、参加者の自主的、積極的な運営の姿が望ましいが、各活動を支える職員の確保は更なる活動推進に役立つであろう。
- ・幅広い対象の講座が開設され、よりよい人生をサポートするサービスが提供できていると思われる。また、一部の講座は自主活動団体の活動へ移行したことで、参加者が自主的に活動するようになった。そして、自主的な活動は更なる生きがい作り等につながるとともに、効率的に機能すると思われる。地域住民のニーズの把握と、より一層の充実が求められる。
- ・自主活動団体が非常に多くなり、それぞれの活動は素晴らしいと思う。しかし、あまりにも同じ内容の活動が数多くあり、仲良しグループの活動になっているようで、新しい参加者は参加しにくい面がある。